

様式第3号

議 事 録

会議名	令和4年度川西市総合教育会議(第1回)		
事務局(担当課)	政策創造課		
開催日時	令和4年7月26日(火) 17時30分から19時00分		
開催場所	川西市役所 4階 庁議室		
出席者	委員	川西市 越田市長 川西市教育委員会 石田教育長、坂本委員、治部委員、佐々木委員、倉見委員	
	関係職員	石田総合政策部長、中西教育推進部長、山元こども未来部長、飯田総合政策部副部長、山戸教育推進部副部長(教育保育担当)、福本教育推進部参事(働き方改革担当)	
	事務局	総合政策部政策創造課 野田課長、松永課長補佐	
傍聴の可否	可	傍聴者数	0人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	1 開会 2 議事 (1)就学前教育保育について (2)特別支援教育保育と障がい児福祉について (3)不登校施策について (4)その他 ①校区に関する課題について ②卒業式の日程について (5)今後の総合教育会議について		
会議結果			

会議経過

発言者	発言内容等
事務局	令和4年度第1回川西市総合教育会議を開会する。開会にあたって、総合教育会議の主宰者の越田市長から挨拶をお願いします。
市長	総合教育会議では今後、市の教育行政の方向性についてより一層共有を図っていく。第6次総合計画策定にかかるタウンミーティングを市内14ヶ所で実施したが、不登校や卒業式の日程、校則の問題など、学校現場や教育に関することについて多くの声がありました。教育現場では受けきれない事柄について、本来教育委員会や学校現場で解決していくことかもしれないが、委員の皆さんに問題提起し議論させていただければと考えています。
事務局	会議の進行について、市長をお願いします。
市長	では、まず(1)「就学前教育保育について」を議題とします。なお、(1)と次に取り上げる(2)「特別支援教育保育と障がい児福祉について」は、前回の令和4年3月に行われた書面開催の総合教育会議において、対応をお願いしたことをふまえたものです。 では教育長から説明をお願いします。
教育長	「就学前教育保育について」の1点目、市立就学前教育保育施設のあり方について説明します。 市立幼稚園の入園児童数が急激に減少しています。市立幼稚園について、近隣に市立保育所がある場合は統合し、幼保連携型認定こども園に移行します。無い場合は廃園もしくは入園児数の状況により廃園を検討することになります。また、市立認定こども園については民間と協同しながら、地域子育て支援の拠点としての機能を担う施設となるように考えています。 2点目、教育保育の質の向上について説明します。 私立施設とともに質の向上に取り組むため、市が主催する職員研修や公開保育の際には、私立施設とも課題や成果などを共有し、相互に学び合う環境を実現したいと考えています。そして、市立幼保連携型認定こども園については、就学前教育保育に関し研究・実践を進め、地域の私立就学前教育保育施設と共有するなど、質の向上に関する地域の拠点としていきたい。
市長	市としては市立幼稚園において集団教育が成立しないというこの状況の中で、継続するのは難しいと考えているが、公立施設として地域子育て支援の拠点の機能を担うのであれば、具体的にどのような機能となるのか、他の幼児教育施設の役に立つのかなど、委員の方に意見を伺いたい。
坂本委員	教育保育において集団教育は大切だと感じています。そして、今までの幼稚園の先生が子ども達を見てきた、そのノウハウやスキルを様々なところで活かすことができればと思います。今後も、公立・私立の別や施設の種類に関わらず、支援が必要な子どもを含めた様々な子ども達が、一つの仲間として受け入れられてきたこれまでの形を展開していくって

発言者	発言内容等
治部委員	<p>ほしい。教育保育の質の向上についても、研修を通じて公立・私立の先生が同様の対応ができるようにするというのは良い取り組みだと思います。</p> <p>子ども一人一人がどうやって成長していくかについて、施設同士が支え合っているか連携しているかが大切で、そのことが幼児教育保育の質だと思います。</p> <p>幼児教育保育の質について、人的な環境要因と物質的な環境要因の両方から、教育保育におけるエビデンスを追求したい。</p> <p>幼児教育は脳の成長にとって重要なのは間違いない事実だと思う。今後、公立・私立に関わらず、幼児教育で重要な観点について教職員の方々と共有していきたい。</p>
市長	<p>幼児教育におけるエビデンスについて、大切な視点だと感じています。市の示す方向性について、説得し理解してもらうためにも、そういったエビデンスとか、実践をしっかりと積み重ねデータをとっていく、こういったことも幼児教育の中でも大切な視点だと考えています。</p>
佐々木委員	<p>ハード面からすると、その時々状況に応じて、必要な施設とか大きさは変えていく必要があります。施設の中でどのような教育が行われるかというの、その時々に応じた人口比率とか、様々な要素を考慮して臨機応変に、その時々市民が幸せに暮らせる形を作っていく必要があると思っています。</p> <p>施設の設置主体が違うだけで、中で学んでいるのは川西の子どもたちです。一人一人を見るという意味では、公立、私立は関係なく、同じような形で、全体的な教育の質が向上するように、サポートできる活動を行っていかねばと考えています。</p>
倉見委員	<p>園の統廃合によって特に園児・保護者など不利益を被るような方々については、できる限り市として支援が必要じゃないかということは、ご理解いただいたように思っています。</p> <p>もう一つ、その地域拠点としての機能、別にそれは公立園でなく私立園でも構わないと思うし、そこで働く教職員に対して市としてアシストするなどして、悩みや課題とかを話し合っ、課題解決に向けていくことが大事だと思います。</p>
市長	<p>公立・私立関係なくというのが、行政と、教育委員会で共有する価値観だと思います。公立が全てではなく、公私一体となって子どもたちの一人一人の成長をしっかりと育てていくということを共有します。</p> <p>これからの幼稚園に関して、慎重にやりたいという部分と、早急に判断をしなければいけないこと双方ある中では、教育委員会だけではなく、行政としても、しっかりとサポートをしていくことを皆さんにお約束したいと思います。</p> <p>2点目は特別支援教育保育と、特に障がい児福祉についての部分で、インクルーシブな部分をどういうふうにしていくのか。少し前段ともかぶってくると思うが、その現状や教育委員会での今の議論の様子などについてご説明をお願いします。</p>
教育長	<p>特別支援教育保育と障がい児福祉について、まず私立幼稚園等に対する加配職員配置への補助だが、幼児教育保育を担っていく中で、特別支援を要する、必要とする子どもたちへの支援について、今まで私立幼稚園が受ける場合は、県の基準に基づいて、県の補助を</p>

発言者	発言内容等
	<p>受けることができたが、その基準が非常に厳しいものであって、なかなか要望するような、補助、支援が受けられない状態となっています。</p> <p>そのような中、市として私立幼稚園がそういった子どもたちを、受入れる時に、市の判断の基準に基づいて、加配教員の人件費相当を補助する制度を今年度から実施しています。事務方としての業務は大きくなるが、非常に大事なことと思っており、さらなる充実を目指して、今年度から取組を進めていこうと思っています。</p> <p>もう一つは、障がい児福祉に関する事務と、特別支援教育との連携です。障がい児福祉に関する事務を教育委員会のこども未来部に移管したことで、教育と福祉の連携を強化し、学校や園所における子どもの成長を全体として支える体制として、最大限有効に活用していくべきだというふうに考えています。</p>
市長	<p>では、今回説明のあった件について、補足で意見などあればお願いしたい。</p>
坂本委員	<p>市からの補助がつくということで、すごくありがたい制度だと思っています。他方で、私立施設の改修というところが、予算がつかないということを知っており、すごく心配しています。スロープをつけていただいたりとか、お手洗を広くしてもらったりとか、そういうところのサポートがないというのは私の中でずっと気になっています。</p>
こども未来部長	<p>私立施設のバリアフリー化、或いはユニバーサルデザイン化については、設立の時期によってはそういった改良が出来ていなかったり、したくても進まないところもあると思います。施設の更新の時とか一部修繕をする時に対応していただくことで、調整等を進めていくというふうな形になっていくかと思えます。ただ、特別な費用が必要な場合もあり、具体的に進めていくことが難しいこともあると思われれます。</p>
市長	<p>市としてあまり認識をしていない課題だったので、どこまで対応するかということも含め、協議が必要だと思います。</p>
治部委員	<p>アメリカのノースカロライナ州は、自閉スペクトラムの人たちにフレンドリーな州を作りますと公言している。私自身、ノースカロライナ大学で研修を受けたが、町に入った瞬間、ユニバーサルデザインのような雰囲気を感じた。今後もしかしたら、ユニバーサルデザインの概念を活用する街づくりが、特別支援教育を含む、多くの児童生徒の教育をささえる方向性なのかなという気がしています。</p> <p>次にミクロなビジョンで見るところでの支援では、例えば、やや衝動的な子どもがいて特別支援が必要になっている状態があるとします。社会の仕組みの中でうまく折り合いがつかないから、特別支援が必要となると考える…当該児童が支援児なのか、それとも、社会の仕組みが生きづらさを生んでいるのか、教育保育環境のあり方を常に考えていく必要を感じている。教育委員会として重要なのは、社会の仕組みを幼稚園、保育所小学校の先生方と共同して、仕組み自体を見直していくという視点を忘れてはいけない。</p> <p>また、大きな問題意識の一つが、叱る教育のあり方です。</p> <p>心理職として色々な相談を受けるが、叱る教育が当たり前という価値観はいまだにはびこっている。それが、子どもたちのためになるのかと言ったら、ならないケースが往々にしてあるし、特別支援が必要だと言われている子たちを尊重したうえで有効かどうか検討することが必要です。</p>

発言者	発言内容等
市長	<p>二つすごく大きな問題提起がありました。</p> <p>一つまちづくりとしてその自閉症スペクトラムのやさしい町。市が目指すべきところとしての大きなビジョンをお示しいただいたと思います。</p> <p>また特別支援に関する点は、これは指導主事の方に、学校現場って今どんな状況なのか、お話をお願いしたい。</p>
教育推進部副部長 (教育保育担当)	<p>以前は、叱ることは多かった。当時は秩序を保つ上で必要なこともあったと思います。</p> <p>ただ、今はそれがよいのかと思っている教師も増えています。一人一人のアセスメントを見て、その事象を起こらないようにするためには、どうすればよかったのか、叱らずに済んだのではないかといった視点に変わりつつあるのではないかと考えています。</p>
倉見委員	<p>私立幼稚園に、市独自で加配したというのは非常に画期的なことだと思います。</p> <p>また、教育と福祉の連携は全国的な傾向なので、うまくいくかはやりかた次第だが、すでに教育委員会事務局では機能別な組織にするなどに取り組んでいるし、市民にとっては、市長部局に置くのか、教育委員会で担うのかは、どちらでもいいことなので、うまく行政として機能するような形で、教育と福祉一元化、国もこども家庭庁創設の流れがあるが、そういった方向の流れとも合わせて大事な時期なので頑張ってもらいたい。</p>
佐々木委員	<p>教育と福祉の連携のところは、どっちでもよくて、良いものとなればよいと考えています。</p> <p>ただ、教育の現場の先生方は教育のプロではあるが、福祉のプロではない。事務方で連携したとしても、現場で福祉的な問題がピックアップ出来なければ何も働かないと思うので、そのあたりのフォローを継続していかなきゃいけない。</p>
市長	<p>ここで、教育現場との福祉のちょっと連携の部分で、これから取り組んでいきたいことなど、両部長から説明をお願いします。</p>
こども未来部長	<p>教育と福祉の連携は、組織的な部分も含めて本市の場合は一定連携が進んでいるんだろうと考えていますが、学校における福祉的手法の活用としては、スクールソーシャルワーカーが、各中学校区に配置がされています。学校の中で生じてきている福祉課題について、学校と力を合わせて、チームの一員として課題を解決していく体制がありますので、まずそこをしっかりと活用したい。</p> <p>さらに相談支援の部分では、昨年度から教育相談の部分と、福祉相談の部分を経営的に受け付け、支援していくという仕組みが出来ています。就学前の部分から小・中学校、さらに若者支援まで、課題や問題を抱える方が、教育的視点や福祉的視点で、総合的に相談支援が受けられるような体制がつくられてきています。今後も教育の基盤として、子どもたちの生活が安定していくような形でしっかりと取組を進めたいと感じています。</p>
教育推進部長	<p>学校では過去、外部の方が介入することに対して、抵抗感があることもあったが、実際にスクールソーシャルワーカーや弁護士などに入ってもらった結果、解決の方向へ流れていく事例も出ています。今後も、そうあるべきだろうと考えています。</p>

発言者	発言内容等
市長	<p>多分、全国の学校現場は、まず学校現場がやって、何か支援が介入してくるという多分何かイメージなのだろう。しかし、サポートするほうも、受けるほうもそういったハードルを低くして、フラットシームレスな形ができればいいなと感じています。</p> <p>次に三つ目の不登校施策についてだが、まず背景を申し上げさせていただきます。</p> <p>先の6月18日から約1ヶ月間、コミュニティ単位で14ヶ所のタウンミーティングを実施しました。その中で、2点の特徴がありました。一つは赤ちゃんや子どもさんを連れた子育て世代が多く、子育て世代がまちづくりにかかわれるのだという機運を感じたことです。</p> <p>もう一つが、今回、「実は子どもが不登校」とか、「私自身が障害を抱えて」とか、子どもがグレーゾーンと言われていて通うことが出来なくてというような、発言が多かったことです。</p> <p>ある種行き場のない思いを発言できる場所となれたという思いと、なかなか聞けない社会課題と向き合え、世の中に出てここから動き出す一つのきっかけになるのではないかと。</p> <p>そのようなたくさんの声をいただいた状況ということで、より集中的に取り組んでいただきたいという思いを込めて、提案しました。では、説明をお願いします。</p>
教育長	<p>三つ目の不登校施策についてですが、川西市も不登校の児童生徒数は非常に増えていきます。</p> <p>平成24年から令和3年の間で、小学校で約4倍、中学校で2倍弱となっています。</p> <p>また小学校低学年にもふえており、全国的な流れだが本市でも低年齢化が進んでいます。</p> <p>そういった中、今年度、中学校全部に校内フリースクールをつくっていただき、支援のシステムを構築できてきており、成果も出つつあると思っています。</p> <p>ただ、今回のような個々の施策も必要ですが、全体としてどういうふうな、どのような方向で進めていくのかについてフレームをつくる必要があると考えており、現在、こども未来部を中心に、教育推進部も協力して検討を進めています。特に教育に関して言うと、児童・生徒本人がそれぞれの状況に応じて多様な学び方を選択することができる場を多くつくるのが大事だと思っています。</p> <p>一方、学習支援だけでなく、福祉的な面から支えていく必要もあります。</p> <p>大きな柱として</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 統一したアセスメントに基づく長期的で多職種が連携した支援体制の構築 (2) 魅力ある学校づくり (3) 学力保障の充実 (4) 校外の学びの場の充実 <p>の四つ挙げています。</p> <p>最終的にはできるかわからないが、市内で不登校特例校のような、いろんな人が集まり、いろんな学び直しができるような場の設置が大きな目標の一つじゃないかということで、こちらに向けても研究を進めていきたいと考えています。</p>
市長	<p>市として多様な学びの場所を提供していくことについては、非常に共感するところです。</p> <p>また、不登校特例校というのは今、国のほうでも各都道府県で一つだったか、この辺り少し専門家でもあられます倉見先生からお話しいただければ。</p>

発言者	発言内容等
倉見委員	<p>文科省の不登校を担当している児童生徒課の職員から話を聞いたら、今、文部科学省としてもその方向に力を入れているということで、来年度の概算要求が通れば、まずその不登校特例校を作る準備段階から人を配置するための補助ができるような形で予算要求しているそうです。</p> <p>新たに学校を設置するとなれば経費は結構かかると思うが、通学する子どもたちもそんなに多くはないと思うので、例えば分教室にするとか、既存の施設を利用するとかもあり得るし、市単独に限らず近隣市町村と組合立という方法もあり得るのではないかと。</p> <p>学校設置ということになれば、国庫補助対象で教員がつくので、長い目で見れば、財政的にもいいのではないかと国庫の担当者がいっていました。</p> <p>それともう1点、岐阜に不登校特例校があるが、その校長先生と話した内容として、児童・生徒が毎日登校するようになったのは、子どもがその日学校へ行くことも含めて、その日に勉強する教科や内容を自分で選べるようにしていることがあるようだ。やはり現在の通常の学校でのシステムでは、子どもがいろいろ選択できる場面というのは極めて少ない。個別最適な学習、そういうことを心がけ、取り入れることが大事じゃないかとのことだった。</p>
市長	<p>教育委員会のほうでも、具体的などという可能性があるのか、仮に市として実施する場合、どういう場所でどういうコンセプトとするのかということ、検討材料としていただきたいことを、市長として要請をしたい。</p>
坂本委員	<p>教育委員会がすべきことなのかどうかかわからないが、学校に行けない、行かないと言っているお子さんの保護者の方へのフォローあまりないように感じています。</p>
市長	<p>子どもがいてくれて幸せになる分もあれば、うまくいかないことによってすごく難しい環境にもなります。こういった保護者への支援は、何か対応を考えるにあたっては、総合政策部長、これは福祉部になるのか、このあたりはどうか。</p>
総合政策部長	<p>今指摘のあったような、どこの領域か難しい件については、課題を持ち寄りながら、総合政策部のほうに少し入って適切な場所、場合によってはプロジェクトでやっていこうという、こういった体制も考えながら、取り組んでいきたいと思えます。</p>
治部委員	<p>川西中学校の校内フリースクールに行きました。こういった取り組みの流れは大賛成です。</p> <p>不登校の問題は、一つは外出しないことで居場所がないため、家族のバランスが崩れやすくなることがあるので、学校に行き、居場所があるというのは、家庭のバランスを保つ上でも大事だし、社会参加の上でも重要な鍵となります。</p> <p>学校に居場所があること、学力保障を支えること、あとは将来、生きる力がつくのだろうかという不安を保護者さんの多くは感じていると思う。子ども自身も、自分の将来がどうなるのかと不安に思うはずなので、これらをサポートできる場になってほしい。</p>
佐々木委員	<p>その学校に場所がないとか、居心地悪く感じているお子さんが増えています。学校教育は、法律で決まっているところもあり、ある程度型にはまったことが求められ</p>

発言者	発言内容等
市長	<p>て自分で決めることに慣れていない中で、そうなったときに児童生徒たちの自己決定権を可能な限り大切にしておいて、そこで何を学ぶか、何が学べるのかという選択肢をしっかりと示してあげることが大事だと思う。</p> <p>また、一度教育の流れから外れると、なかなか戻れないという、日本の現状があると思うが、戻りたい時には学業に戻れるような流れを何か構成されてきたらいいと思います。</p> <p>やりたいこと、やるべきことというのは、現場に落ちており、現場で感じることというものを、大切にしたいと思っています。</p> <p>例えば、いじめに遭った場合なら、校内フリースクールであったとしても、近くに自分をいじめたり、自分とうまくいかなかった子がいるというだけで行けないなど、様々な方たちがいるので、多くの選択肢を示した中で、市として進むべきところを、これからも示していただきたい。</p> <p>次に、その他として、2点個別具体的な議論をさせていただきたいと思います。</p> <p>この背景についてだが、まず1点目は校区に関する課題について、これは地域のほうと保護者の思いが非常に違うという状況もあるので、現状について説明をお願いします。</p>
教育長	<p>校区に関する問題というのは、過去から課題として抱えていたと思っています。</p> <p>とりわけ、目の前に近いところに学校があるのになかなかその学校に行けない。遠いとされる校区内の学校と近い校区外の学校、これを選択が出来ないのかということで、課題をいただいています。</p> <p>川西は特異なのだが、5%枠ということで、小・中学校入学時に隣接する学校に対して、5%の枠内であれば、校区外入学を認めようという制度があります。これは、学級編成上の人数に隔たりがないようななどの理由からです。多くはこの5%で解決しているが、地域によっては5%枠で収まらないところが出てきています。</p> <p>このような状況を受けて、現在市教委として、5%枠という大きなフレームはあるものの、それ以外の様々な理由によって校区外就学を認めているので、その要件を緩和する形で、校区外を希望される方を支援する方向で考えているところです。</p>
市長	<p>この問題が一番多いのが松が丘、霞ヶ丘の地域です。コミュニティ、小学校区は川西北小学校に入る。でも一番近いのはもう目の前、桜が丘小学校。</p> <p>地域のコミュニティ組織としての区域の問題もあったと思うが、私としては子どものために最善の判断、最善の学校はどこかということを考えてほしい。</p> <p>大人たちの都合で子どもの学ぶ場所が変わるというのは、学びとしてはおかしいと思う。教育委員会の皆さん、これから審議会でも議論があると聞いておりますので、今後の議論に役立てていただきたいと思います。</p>
坂本委員	<p>校区については、子どもたちの利益を考えて、柔軟にしてほしいと思います。</p> <p>一方で、小学校コミュニティの視点となると、校区外の子どもには、行事があったりとかする中で、情報が入ってこないことがある点、どうするかという疑問は残ります。</p>
市長	<p>地域コミュニティとの関わりは確かにある。ただ、もともと私立や国立の学校に行っている方は、初めからその地域の子どもやけど、地元の小学校のコミュニティのイベントなんでもともと知らない状況で入ってこないこともあるので、対応は可能ではないかと思</p>

発言者	発言内容等
佐々木委員	<p>ます。</p> <p>うちは市立の小学校に通わせていないので、地域と言われ、コミュニティと校区の問題を一緒に論じられていることがいまいちピンとこないです。</p> <p>結局それも、どうやったら子どもが幸せに学べるかという視点を忘れなければ正解はおのずから出てくると思います。</p>
倉見委員	<p>こういった校区問題は、私が聞く限りでは、地域によっては、地価が変わってしまうから、やめてくれというところもあったりして、教育的な視点だけでは解決出来ないこともあり、すべての人が納得いく解決が得られる問題ではないので、関係者で大いに議論し、最適な結論を導くしかないと思います。</p>
市長	<p>今後校区審などでも議論があると思うが、ぜひ子どもの学びを大切にすることを最優先とし、それについて、ネガティブなもちろんご意見反対のご意見があった場合は、教育委員会だけではなくて、市長部局も含めてオール川西として、子どもたちのための決定であれば、サポートしたい。</p> <p>最後に、中学校の卒業式の日程について。こういうのが総合教育会議に出てくるのかということだと思うが、これもマスコミの報道等でもあったので、補足として説明します。</p> <p>ある保護者の方から、中学校の卒業式、公立高校入試の前日というのはゆっくりお祝いをしてあげることも出来ないから何とかならないのかという提案をもらった。その方々が複数学校の保護者にアンケートをとった結果をいただいたが、日程を変えて欲しいという方が多いとのことでした。</p> <p>すでに教育委員会で決まったところというのは当然あるんですが、それを尊重した上でも、一つ我々として耳を傾けるべき意味があるのではないかということで、協議をさせてもらいたい。その前に教育長から状況の説明をお願いします。</p>
教育長	<p>卒業式は、教育課程の編成ということなので、学校長の判断で決定するものだが、経営としては、生徒指導上の課題とか計画上の問題もあって、統一しようということが一つ。さらに拡大して、阪神間で生徒指導上の課題もあり、統一して、前年度の3学期ぐらいに、決定をしている状況です。</p> <p>ただ、教育課程を編成するにしても、児童生徒や保護者の案内にきちっと耳を傾ける、そういうシステムが、学校であまり出来ていなかった。決定するまでに耳を傾けていくことは大事だと思います。</p> <p>教育委員会としては、必要があれば、中学校長会など必要に応じて協議に臨みたいと考えています。</p>
坂本委員	<p>保護者をしていて、なぜ卒業式は入試の前なんですかっていうのは、何度となく聞いてきたが、いよいよ声が上がってきたのだなという実感です。</p> <p>ただ、子どもたちがどう思っているんだろうっていうところの議論をすっ飛ばして、大人がこうだっていうのはちょっと違うなと思っている。確かに大人が考えれば子どもたちは考えるのだろうけど、子どもたちがこうあって欲しいっていうことがいえるような学校の環境であって欲しいなと思いました。</p>

発言者	発言内容等
市長	<p>なおこの問題、裏で火をつけたのは、昨年度突然神戸市で、その掟を破り変更した中学校の先生がいらっしゃるというお話をお聞きしました。お話いただけませんか。</p>
教育推進部参事(働き方改革担当)	<p>あくまでも、神戸新聞から取材を受けたときもそうですが、当時の(神戸市の)校長として答えさせていただきます。</p> <p>去年の子どもたちは、コロナで3年間苦しいところもありましたが、SNSでどうしたかを聞いたところ、9割以上の回答が後にしたいという回答でした。</p> <p>コロナ以前も、何で前なのかというふうにずっと多く質問はありました。去年急にやったのは、神戸市教育委員会が当初の卒業式の日1週間前に、コロナのこともあるので学校長判断でという通知を出したからです。これを受け、やろうということをやったら誰もやってなかったという結果でした。</p> <p>私が知っている限りでは、前日にやろうとしているところは半分減ってきていると思います。ただ、川西市は川西市の考え方があるので、その辺は手順を踏んで考えていったらいいんじゃないかと思います。</p>
市長	<p>ぜひ教育委員会のほうから、全ての学校で一度、やはり子どもたちに、保護者の方もそうですけど、いつ卒業式がいいのかということ、ぜひ問うていただきたいと思います。子どもたち、保護者の意見を聞いて再度決定をして欲しいというところを、ぜひ市長としては検討をいただきたいなというふうに思っています。</p> <p>最後に、今後の総合教育会議についてということで、2点提案をさせていただきたい。一つは、これからのまちづくりの柱として一つやはり教育というものがあるということ。教育委員会と市長部局共通する理念と一緒に作っていききたいなと思っています。ぜひお力をかしていただきたいということ。</p> <p>もう一つが、市民の皆さんにもご意見をいただくとか、議論をしていることを、やはり保護者の皆さんにも来ていただき、関係者から話を聞くことができるよう、例えばこれはよくやる出張会議のような新しい形態にしてはどうか。</p> <p>今、子どもを真ん中に置いてというのが我々の共通しているところですので、何か教育行政が学校運営に、保護者や子どもが参画できるような、何かそんな一つの拠点としての総合教育会議があればいいなということを考えているので、こういったことについてもぜひ進めていければなと思うがどうですか。</p>
教育長	<p>実は私もいろいろな機会、このコロナ禍の中でやったときに、子ども意見を十分、教育委員会として聞いていなかった反省があります。なかなか先の見通せない中で決定を急がなければならないこともあり、やむを得ない部分もあったが、その反省として今年度初めにちょっとアンケートをとらせていただいて、子どもたちの思いとか保護者の思いというのは、一定把握する取組をしたところです。</p> <p>ただ同時に、子どもたちと生で話していないなど。子どもたちからこう聞くような場面があってもいいなと思っています。その場が教育委員会になるのか総合教育会議になるのかはいずれでも構わない。</p> <p>子どもたちが、意思決定をしたり意見を表明したりするような場面を学校に求めるだけじゃなくて、教育委員会や総合教育会議で率先してやっていくということは、非常に大事だと思う。共感するところもあるし、必要かなというふうに考えています。</p>

発言者	発言内容等
市長	<p>この議論、ここだけでやっているのがもったいない。ぜひ保護者や子どもたちの場所でやりたい。</p> <p>では、それぞれ最後に一言ずつお願いしたい。</p>
坂本委員	<p>移動教育委員会をずっとやりたいと言っていて、各学校に出向いていきたいぐらいの勢いで思っていました。やっぱり先生たちとの研修とかで、先生から教育委員会で何をしていると言われたことが一番ショックでした。知っていただくっていうのと、子どもたちともいろいろな意見を交換したいと思っていますので、大賛成です。</p>
治部委員	<p>自己選択、自己決定って非常に重要なキーワードだと思います。中学生たちが自分たちの制服をどうするのか等、学校での規則を自分たちで考え議論する動きを見ると、いいなと個人的に思う。</p> <p>そう考えたときに子どもたちを中心に一緒に会議をしていく流れには、期待したい。</p>
佐々木委員	<p>主人公の子どもたちの意見は大事だが、我々はその意見を受け止めつつ、その都度都度振り回されることなく、しっかりとした軸足を置いて、やっていけるのであれば、ここで個人間に集まってやる方法にける必要はないと思います。</p>
倉見委員	<p>趣旨に異論はない。ただやり方は丁寧に考える必要があります。本音を聞けるように意識して、セッティングしていかなければいけないと思います。</p>
市長	<p>これから我々が一緒に乗り越えていかないといけない課題というのはたくさんあります。</p> <p>佐々木委員の心配にもあるように、振り回されるということではなく我々自身も軸を持った中で、課題についてはどう考えるのだということをしっかりと協議をしていく場になればと思います。</p> <p>以上で、第1回の総合教育会議終了させていただきたい。</p> <p>第2回以降の日程につきましては、後日改めて調整をさせていただきたいと思います。</p> <p>ありがとうございました。</p>